

## データ工学論文特集の発行にあたって



データ工学論文特集編集委員会

委員長 原 隆 浩

本特集は、2004年度にスタートしたデータ工学に関する特集号の第6回目の発行となる。データ工学は、データベースを中心として、データを管理し操作する基盤技術である。更に、様々な情報がデジタル化され蓄積、伝達、編集加工、分析が容易になった現在、データ工学の役割も単なるデータベースソフトウェアの開発と提供だけでなく、インターネットで提供される膨大な情報をデータとして収集、分析、検索、再利用するなどの高度なデータ操作を実現するための中核技術として認識されている。特に、昨今ではWebがWeb2.0へと進化し、日常生活でも検索サービスなどの各種ネットワークサービスが定着していることから、データ工学技術は生活を快適にするためには不可欠な道具となってきている。更に、センサネットワークやモバイルネットワーク、P2Pシステムなどの新たなネットワーク環境の普及や、プライバシー、セキュリティに対する社会的な要求の高まりなどから、情報化社会を取り巻く環境も大きく変貌している。データ工学分野は、自然言語処理、パターン認識、ネットワーク、ユーザインタフェースなど、計算機科学の各分野と密接に関連しており、その融合により高度情報化社会を支えることが期待されている重要な研究領域である。

データ工学研究専門委員会では、データ工学に関する様々な研究テーマをトピックとして、データ工学ワークショップ(DEWS)を日本データベース学会と毎年早春に共同開催している。2008年は、3月9日から11日まで宮崎県フェニックス・シーガイア・リゾートで第19回データ工学ワークショップ(DEWS2008)を開催した。DEWS2008ではデータ工学分野における重要

なテーマから、萌芽的、先進的、先見的なアイデアまで幅広い内容の研究発表が行われた。参加者数は過去最高の463名となった。これは国内の研究会主催の国内会議としては最大規模であり、DEWSが年間イベントとして認知され、更にデータ工学と境界領域研究分野の研究者の関心を強く引き付けていることを示唆している。

DEWS2008での発表は、論文の内容をじっくり議論できる口頭発表(持ち時間15分)を基本とし、更にポスター形式で発表者と参加者が直接議論可能なインタラクティブ発表から構成した。口頭発表の件数は、記念講演、チュートリアル、技術報告セッションを除いて256件であった。また、インタラクティブ発表は75件であった。口頭発表の件数が過去最高となったため、最大で同時5セッションの構成で実施した。口頭発表セッションには、Web検索・分析、セキュリティ・プライバシー、P2Pネットワーク、モバイル・ユビキタスネットワーク、センサデータ・ストリーム、音楽情報に関連したセッションなどがあり、上記の発展しつつあるデータ工学の現在の動向を顕著に反映している。

またDEWS2008では、研究コミュニティにおけるDEWSの位置付けを考慮して大きな変革を図った。具体的には、発表者が該当する研究分野の専門家から適切なコメントをもらえるように、新たに「コメンテータ制度」を導入した。各口頭発表セッションにおいて、その研究分野の専門家3名をコメンテータとして配置し、積極的に議論に参加してもらった。その結果、発表後の質疑応答時における議論が活発化し、非常に有意義なワークショップとなった。

DEWS2008の終了後に、コメンテータによる推薦を参考に、口頭発表論文の中からDEWS2008プログラム委員会で審査を行い、DEWS2008最優秀論文賞を1編、優秀論文賞を4編選定した。これらの論文に対しては、本会論文誌の研究会推薦論文の手続きをとっている。このほかにも、インタラクティブ発表を対象として、最優秀インタラクティブ賞1編と優秀インタラクティブ賞2編を選定した。

このようなDEWS2008での活発な議論と多数の優れた論文発表を受け、情報・システムソサイエティ和文論文誌(D)において「データ工学論文特集」を企画した。DEWS2008での発表と質疑を踏まえ更に発展させた論文を募集するとともに、広くデータ工学分野の論文の募集を行った結果、29編の投稿があった。厳正な査読と審査を行い、最終的には8編の論文を採録した。採録した論文には、DEWS2008及びDEWS2007の論文賞を受賞した論文を発展させた研究会推薦論文が含まれており、いずれも質の高い論文である。分野的には、Web検索・情報抽出、視覚化、テキストマイニング、パターン照合、ストリーム処理からなり、現在のデータ工学の中心的課題を反映している。データ工学の最新研究成果を論文誌として公表するという本

特集号の目的は十分果たせたと考える。

本特集号を編集するにあたり、短期間にもかかわらず多くの時間を割いて献身的に作業をして頂いた編集委員と査読委員の方々に御礼を申し上げます。特に幹事を担当して頂いた岡山県立大学 國島丈生先生と電気通信大学 大森匡先生には、本特集号の編集全般にわたって多大な御尽力を頂いた。また、学会出版事務局の高木久恵様にも多くの御支援を頂いた。この場をお借りして、皆様に心より感謝を申し上げます。

最後に、本データ工学論文特集号、研究会、更にデータベース関連学会・研究会との連携などを通じたデータ工学研究専門委員会の活動が、データ工学分野の研究の更なる発展に寄与することを切に願っている。

はら たかひろ  
原 隆浩(正員) 1995阪大・工・情報システム卒。1997同大大学院工学研究科博士前期課程了。同年同大学院工学研究科博士後期課程中退後、同大学院工学研究科情報システム工学専攻助手、2002同大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻助手、2004より同大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻准教授となり、現在に至る。博士(工学)。データベースシステム、分散処理、モバイルコンピューティング等の研究に従事。DEWS2008プログラム委員長、データ工学研究専門委員会副委員長。IEEE, ACM, 情報処理学会, 日本データベース学会各会員。

#### データ工学論文特集編集委員会

委員	長	原	隆	浩					
幹	事	國	島	丈	生	・	大	森	匡
委	員	有	次	正	義	・	池	田	哲
		片	山	紀	生	・	川	越	恭
		佐	藤	哲	司	・	角	谷	和
		宝	珍	輝	尚	・	松	澤	裕
									史
									夫
									・
									市
									川
									哲
									彦
									・
									岩
									井
									原
									瑞
									穂
									・
									相
									良
									毅
									・
									波
									多
									野
									賢
									治